環境総合展で十勝の技術発信

北海道洞爺湖サミット2008

【札幌】北海道洞爺湖サミット記念の「環境総合展」が19日に札幌ドームで開幕、十勝関係の企業・団体も自慢の環境技術を発信している。

マテックのブースでは古新聞などの実物を用いてリサイクル過程を紹介、来場者の関心を集めた

自動車パーツからロケットまで

マテック、アクト、大樹町とHASTICなど

アクトが展示している排水浄化システムのモデル

マテックは普段目にすることのできない使用済み自動車のリサイクルパーツや、古新聞を圧縮した重さ1トンの「新聞ベール」、鍋や釜がプレスされた状態のものなど、リサイクル途中の品々を展示。杉山博康社長は「実物を展示することで、来場者が関心を持ってくれる」と話す。小学生対象の「エコツアー」やリサイクルポイントシステムなど環境への取り組みも紹介する。

アクトは活性化石炭を用いた排水浄化システムの100分の1モデルを展示。一般的に難しいとされる乳脂肪分の分解に威力を発揮、「農業施設専門メーカーとして、循環型農業を支えたい」と内海洋社長。ヒューエンスは、特許技術を生かしたオゾンによる排水処理や脱臭のシステムを、モデル装置を展示してアピールする。

大樹町とHASTICはCAMUI型ハイブリッドロケットを展示

大樹町とHASTICは「北海道の宇宙開発」をテーマにCAMUI型ハイブリッドロケットを展示。北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）の伊藤献一副理事長は「北海道の宇宙開発をまず知ってもらい、環境にやさしい宇宙開発であることを理解してもらいたい」。大樹町での打ち上げの映像も紹介した。

日本家畜貿易は牛ふん堆肥（たいひ）からつくったペレットを出品、小型機械による製造の実演も行っている。共成レンテムは屋外ブースで、ソーラー式LED表示機、バイオトイレなどの商品を展示。土谷特殊農機は氷を活用したアイスシェルターを紹介。エコRECは十勝産のナタネを使った油の製造を実演した。

このほか、20日のバイオマス総合シンポジウムでは、十勝バイオマス利活用促進協議会事務局の菊池貞雄氏が十勝の現状について報告した。環境総合展は21日も午前10時から午後4時まで開かれる。

（澤村真理子、末次一郎）